



## 「外為短期投資家動向調査」結果

<第27回調査>

2011年8月29日

### 【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

### 【調査実施期間】

2011年8月16日(火)13:00~2011年8月23日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

### 【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

### 【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は、2681件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

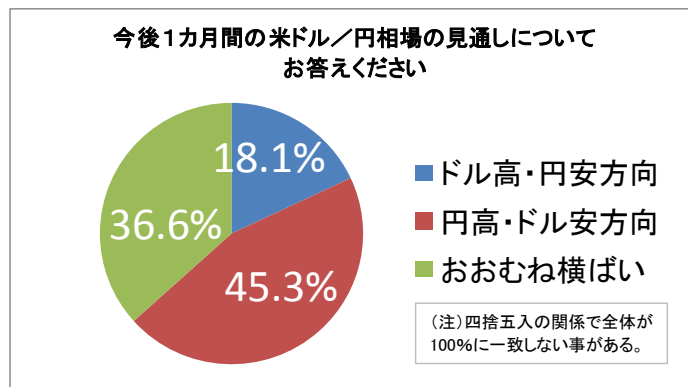
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 【第27回調査結果略報：ドル円予想DI過去最大のマイナスに】

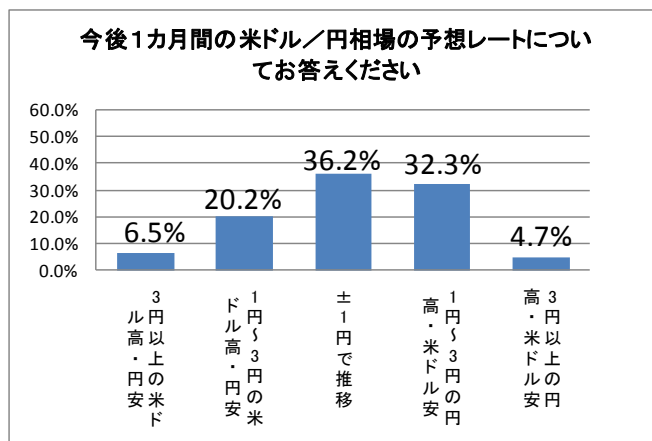
### 問1：今後1カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください

「今後1ヶ月間のドル円相場見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が18.1%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が45.3%となった。この結果、「ドル円予想DI」は▲27.2%ポイントとなり、前回調査の▲9.3%ポイントからマイナス幅が拡大。半数近くのFX投資家が円高・ドル安を予想するなど円強気・ドル弱気派が一段と勢力を増す格好となった。8月4日に本邦通貨当局による史上最大規模の円売り・ドル買い介入が行われたにもかかわらず、調査期間中の8月19日にはドル円相場は一時75円94銭の戦後最安値を記録。その後も歴史的低水準での推移が続いている。今回の予想DI▲27.2%ポイントは、本調査開始以来最大のマイナスとなっており、これまではドル安が進む局面でも、ある程度のドル強気を維持していたFX投資家の「逆張り」スタンスに変化が生じつつあるのかもしれない。※過去のドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



### 問2：今後1カ月間の米ドル／円相場の予想レートについてお答えください

「今後1ヶ月間のドル円相場の予想レート」については、「±1円で推移」が36.2%と最も多く、次いで「1円～3円の円高・米ドル安」が32.3%、「1円～3円の米ドル高・円安」が20.2%、「3円以上の米ドル高・円安」が6.5%、「3円以上の円高・米ドル安」が4.7%の順になった。ヒストグラムの形状は、やや円高・ドル安方向に傾いており、問1の結果と整合的である。ただ、「±1円で推移」が最大の回答割合を集めた事や「3円以上の円高・ドル安」と答えた割合が最も低かった事から見て、今後1カ月間で大幅に円高・ドル安が進むと見ているFX投資家は比較的少ないと言える。73.50円～77.50円が、FX投資家による今後1カ月間のドル円相場の予想中心レンジとなっているようだ。

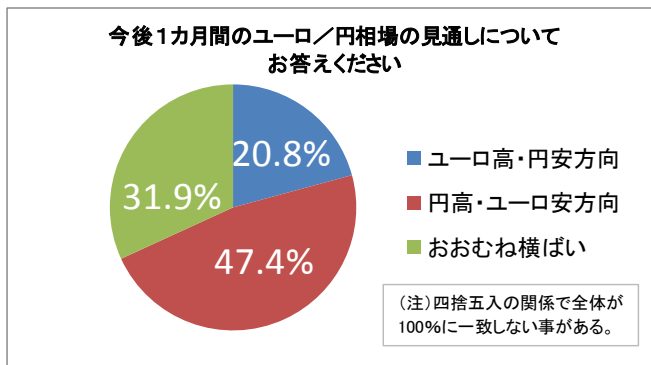


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

### 問3: 今後1カ月間のユーロ／円相場の見通しについてお答えください

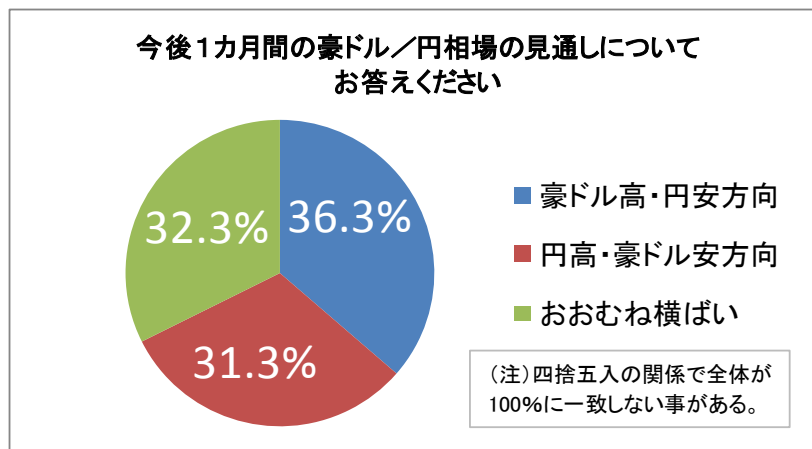
「今後1カ月間のユーロ円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が20.8%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が47.4%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は▲26.6%ポイントとなり、前回調査の▲33.0%ポイントからマイナス幅はやや縮小したものの、予想DIは4カ月連続でマイナスDIを記録した。調査期間中のユーロ円相場は、概ね109円から111円のレンジでもみ合っており、目立った方向感はなかった。ただ、ユーロ圏では引き続き欧州債務懸念がくすぶっており、中核国であるドイツにも景気減速懸念が台頭している。欧州中銀（ECB）が利上げスタンスを修正するとの思惑もある事から、FX投資家のユーロ弱気姿勢が維持されたようだ。※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



### 問4: 今後1カ月間の豪ドル／円相場の見通しについてお答えください

「今後1ヶ月間の豪ドル円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が36.3%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が31.3%となった。この結果「豪ドル円予想DI」は+5.0%ポイントとなり、豪ドル強気・円弱気予想は維持したものの、予想DIのプラス幅は4カ月連続で縮小した。調査期間中の豪ドル円相場は、概ね79円から81円という比較的狭いレンジで推移しており目立った方向感はなかった。ただ、主要国の株価が一時下落傾向を強めるなど世界的な景気減速が懸念される上、一部では豪準備銀行（RBA）が年内に利下げを行うとの観測もあるため、FX投資家の豪ドル強気姿勢には徐々に陰りが見え始めているようだ。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

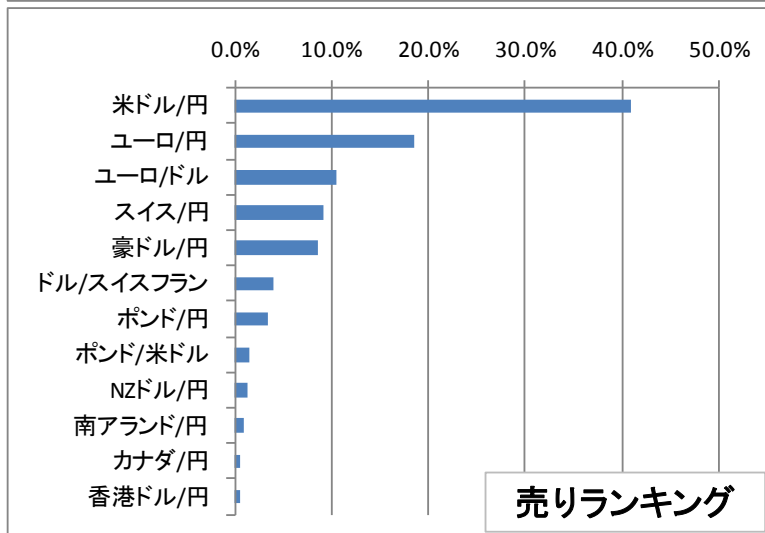
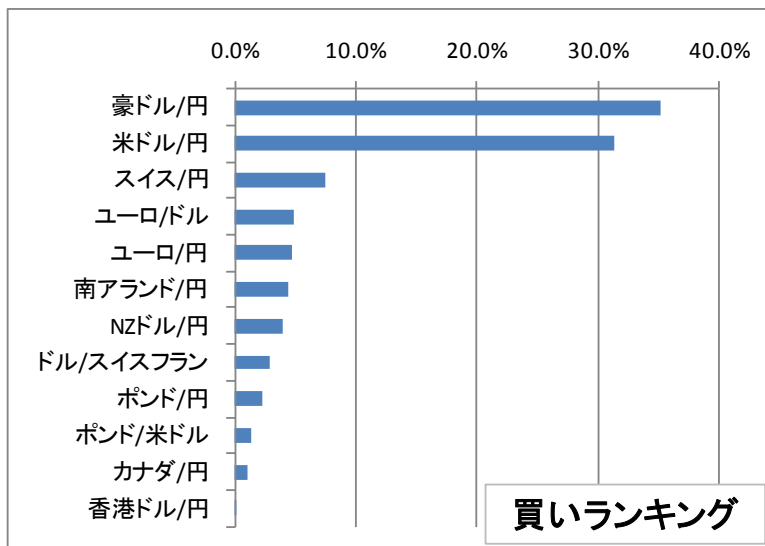


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

**問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください**

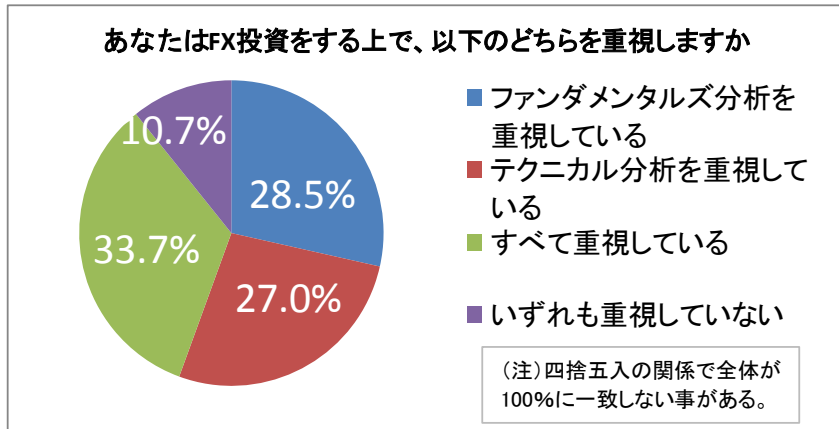
「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位豪ドル円(35.2%)、2位ドル円(31.4%)、以下大きく離れて3位スイス円(7.6%)、4位ユーロドル(4.8%)、5位はユーロ円(4.8%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ドル円(41.0%)、2位ユーロ円(18.6%)、3位ユーロドル(10.5%)、4位スイス円(9.1%)、5位豪ドル円(8.7%)となった。「買い」で注目の通貨ペアでは1、2位の豪ドル円とドル円には大きく水をあげられたとはいえ、第3位に、普段はやや注目度が低いスイス円が入った点が興味深い。(スイス円は前回調査では第7位、回答割合は4.2%)スイス円相場は、調査期間直前の8月9日に108.71円まで上昇した後、調査期間内の8月17日にはスイス中銀によるスイスフラン高是正策の実施などから95.61円まで急落している。こうした値動きの良さがFX投資家の興味を惹いたようだ。一方、「売り」で注目の通貨ペアでは、ドル円が2位以下を大きく引き離して1位の座に返り咲いた。問1の回答割合でドル弱気派が半数近くを占めた事と整合的な結果となっている。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

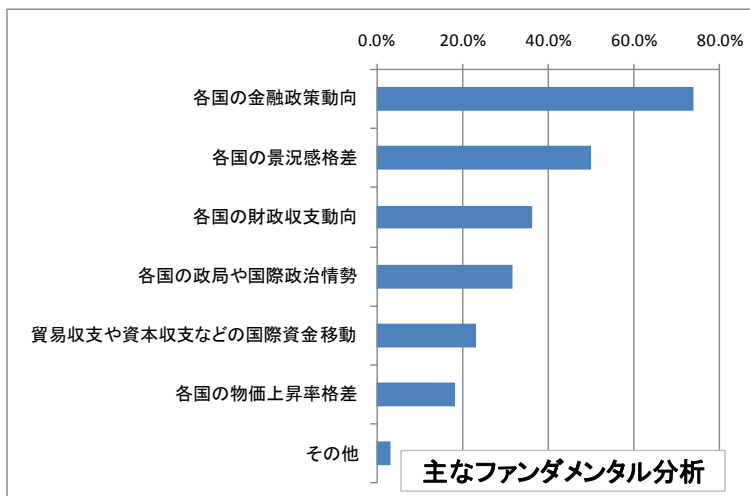
**問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?**

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が28.5%であったのに対し「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が27.0%という結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が33.7%と引き続き最も多く、「いずれも重視していない」は10.7%となった。調査期間中には、ドル円相場が戦後最安値を更新して下落するなど波乱含みの展開となったが、回答割合に調査開始以来顕著な変化は見られない。FX投資家の分析手法の好みは、相場環境には左右されにくいようだ。



**問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか?**

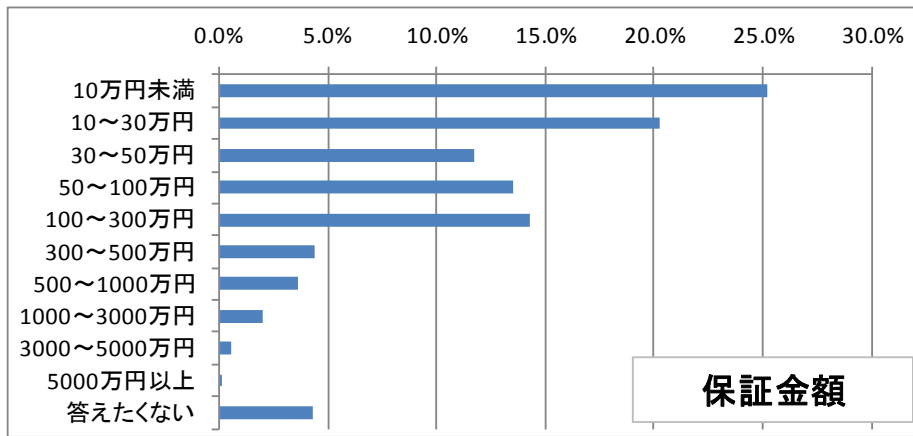
「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(74.0%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(50.3%)」、「各国の財政収支動向(36.3%)」、「各国の政局や国際政治情勢(31.8%)」、「貿易収支や資本収支などの国際資金移動(23.1%)」、の順に続いた。今回も引き続き「各国の金融政策動向」が他を大きく引き離して7割以上の回答割合を集めている。足元でも、米国の追加緩和観測がドル安要因とされるなど、「各国の金融政策動向」が為替相場の方向性を決める事も少なくない。FX投資家が各国の金融政策格差に最も注目する傾向は調査開始以来変わらない。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

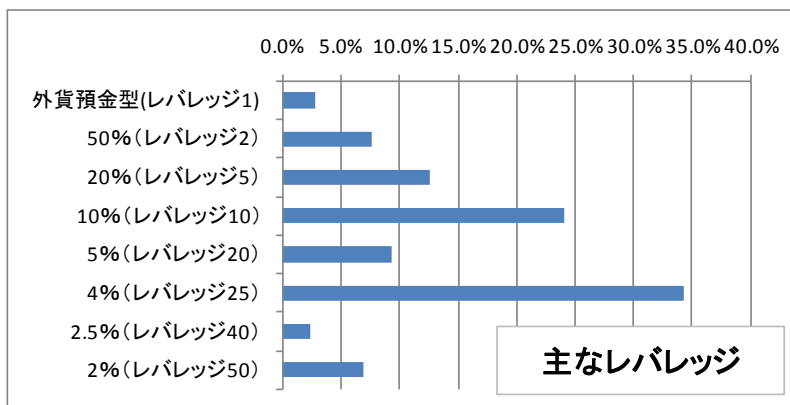
**問8: FX取引の際の保証金の額についてお答えください**

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が25.2%と最も多く、以下「10～30万円(20.3%)」、「100～300万円(14.3%)」、「50～100万円(13.5%)」と続いた。100万円以下の保証金で取引を行うFX投資家が70.7%を占める(合算割合)一方で、1000万円以上と答えた合算割合は2.6%にとどまった。比較的小額の保証金で取引が可能というFX取引の特性を良く現わしていると言える。今回も、先月までの回答割合から顕著な変化は見られず、今年8月から始まったレバレッジ規制に際して、これまでよりも保証金を増やして対応したFX投資家は少ないようだ。



**問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？**

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「4%(レバレッジ25)」と答えた割合が34.2%と最も多く、「10%(レバレッジ10)」が24.1%、以下「20%(レバレッジ5)」が12.6%、「5%(レバレッジ20)」が9.3%と続いた。前回調査時点では「4%(レバレッジ25)」は12.1%であり、「2%(レバレッジ50)」は22.6%であった。レバレッジ規制前に「2%(レバレッジ50)」を選択していたFX投資家のほとんどが「4%(レバレッジ25)」に移行したと見て良いだろう。なお、今回の調査でも「2.5%(レバレッジ40)」や「2%(レバレッジ50)」との回答が見られたが、これは、規制前から保有しているポジションについては、全体保証金率が4%を下回らない限り8月以降も維持できるというルールに基づいたものと見られ、強制ロスカットを避けるために保証金に余裕を持たせた上で高レバレッジを選択しているFX投資家が少なからず存在するようだ。

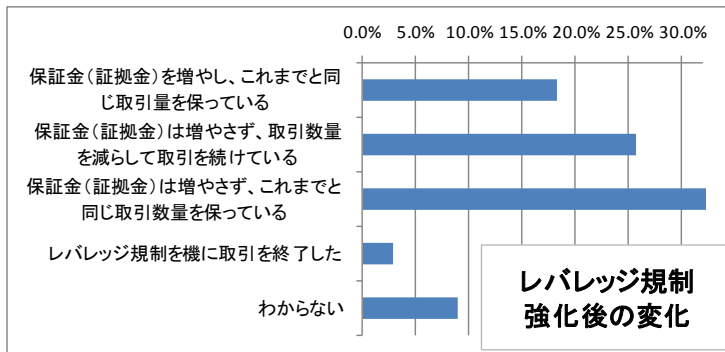


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

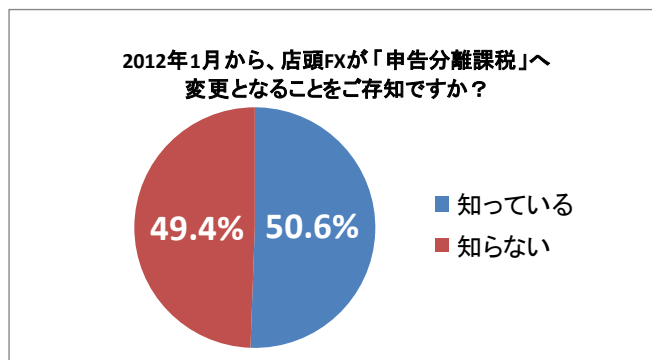
問10: 2011年8月1日から、FX取引について、レバレッジの上限が25倍まで(証拠金率4%以上)となりました。この規制を受けて、約1か月間のFX取引スタイルの変化をお伺いいたします。

今月の特別質問項目として、レバレッジ規制実施後のFX取引スタイルの変化について尋ねたところ、「保証金は増やさず、これまでと同じ取引数量を保っている」と答えた割合が44.2%と最も多く、以下「保証金は増やさず、取引数量を減らして取引を続けている」が25.7%、「保証金を増やし、これまでと同じ取引数量を保っている」が18.3%と続いた。また、具体的にどのように取引スタイルが変化したかを自由記述形式で尋ねたところ、最も多かったのは「元々低レバレッジの取引なので特に変化はない」であり、レバレッジ規制がFX投資家に与えた影響はそれほど大きいものではないとも言える。しかし一方で、「どれくらい保証金に余裕を持ったら良いか分からず不安になり、取引単位を減らす傾向にある」、「保証金を増やすとともに、取引量も減らした」、「資金が少ないので取引数量を減らさざるを得ない」などの声も挙がっており、FX市場全体の取引高がある程度減少した事はほぼ確実であろう。また、一部には「(高レバレッジで取引できる)海外業者に口座を開設した」との声もあった。



問11: 2012年1月から、当社の『外貨ネクスト』をはじめとする店頭FXが従来の「総合課税」(累進税率)から「申告分離課税」(税率:一律20%)へ変更となることをご存知ですか？

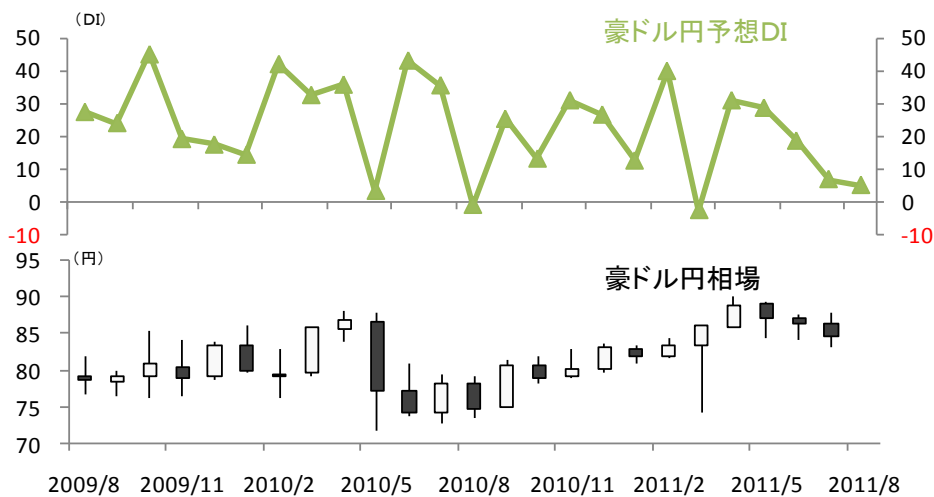
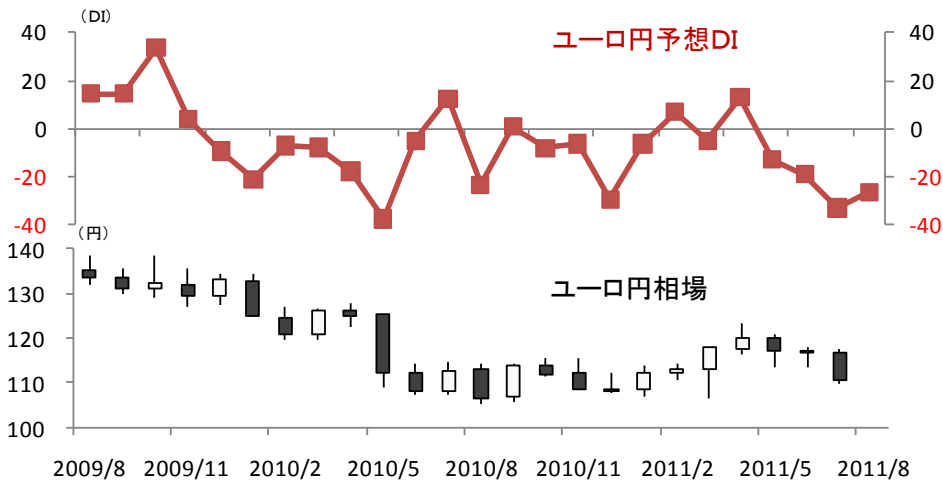
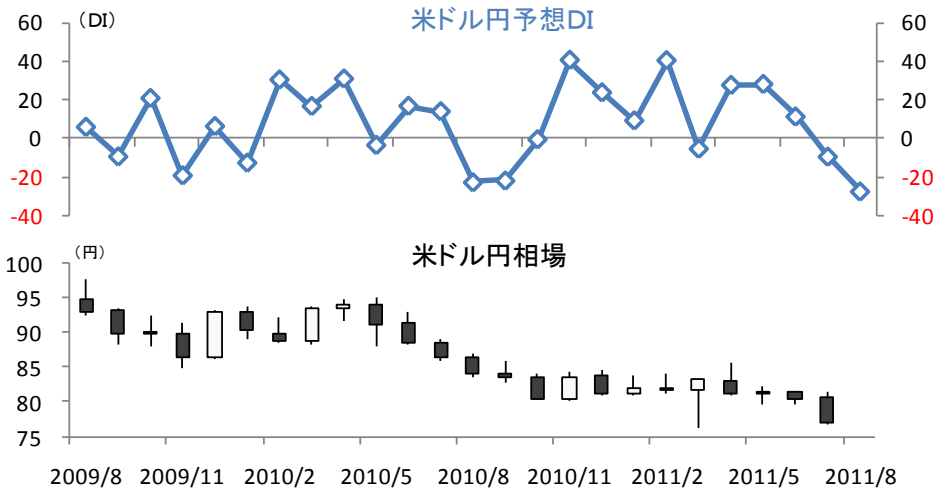
今月のもう一つの特別質問項目として、2012年1月からの店頭FX取引にかかる税制変更について尋ねたところ、「知っている」と答えた割合が50.6%であった一方で、「知らない」と答えた割合が49.4%と約半数にのぼった。平成23年度税制改正が公布・施行されたのが今年6月30日であり、まだ2か月ほどしか経っていないため、周知が進んでいないものと推測される。これまでの総合課税に比べ、最高税率が引き下げられるだけでなく、3年間の損失繰越控除が可能になるなどFX投資家にとって有利になる点が多いため、来年1月からの税制変更に向けて、今後は各店頭FX取引業者が周知を図る事になるだろう。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表: 主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



(出所) 外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com



## 【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第27回目となりました。前月との対比での時系列比較は可能になり始めていますが、開始後2年以上が経過し、前年同期との比較も可能になってきました。しかしながら、まだ十分な時系列データの蓄積は進んでおりません。このため、現時点では統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間に渡る時系列比較を十分に提示することはできていませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年中央以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

## 【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2009年	8月	36.3	30.3	6.0	41.8	27.3	14.5	50.7	23.3	27.4
	9月	32.1	41.3	-9.2	38.0	23.5	14.5	45.1	21.1	24.0
	10月	45.5	24.7	20.8	51.1	17.4	33.7	60.5	15.4	45.1
	11月	22.9	41.8	-18.9	33.6	29.7	3.9	44.6	25.5	19.1
	12月	37.6	31.2	6.4	27.8	37.3	-9.5	41.4	24.0	17.4
2010年	1月	28.5	40.9	-12.4	24.6	45.7	-21.1	41.7	27.4	14.3
	2月	49.9	19.6	30.3	31.6	38.7	-7.1	56.9	14.8	42.1
	3月	37.6	20.9	16.7	30.3	38.2	-7.9	50.0	17.4	32.6
	4月	50.5	19.7	30.8	26.1	44.0	-17.9	53.3	17.5	35.8
	5月	33.9	37.2	-3.3	21.4	59.1	-37.7	40.3	37.1	3.2
	6月	35.9	19.1	16.8	32.9	38.0	-5.1	58.7	15.5	43.2
	7月	40.8	26.8	14.0	41.8	29.2	12.6	53.9	18.3	35.6
	8月	26.0	48.5	-22.5	25.2	48.7	-23.5	34.5	35.6	-1.1
	9月	22.3	43.9	-21.6	36.7	35.8	0.9	47.8	22.5	25.3
	10月	37.3	37.7	-0.4	29.3	37.3	-8.0	38.9	25.8	13.1
	11月	57.4	17.0	40.4	28.2	34.6	-6.4	48.0	17.0	31.0
	12月	42.9	19.2	23.7	19.2	48.7	-29.5	44.0	17.4	26.6
2011年	1月	33.0	23.7	9.3	31.8	38.2	-6.4	37.3	24.8	12.5
	2月	53.2	13.0	40.2	33.6	26.6	7.0	54.8	14.8	40.0
	3月	38.7	43.9	-5.2	35.1	40.2	-5.1	37.7	40.4	-2.7
	4月	48.2	20.7	27.5	43.8	30.7	13.1	51.0	20.0	31.0
	5月	44.3	16.3	28.0	29.4	42.3	-12.9	47.7	19.0	28.7
	6月	33.4	22.1	11.3	25.2	44.3	-19.1	41.2	22.6	18.6
	7月	29.4	38.7	-9.3	22.3	55.3	-33.0	36.2	29.4	6.8
	8月	18.1	45.3	-27.2	20.8	47.4	-26.6	36.3	31.3	5.0

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様が生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com